

インタビュー

家族に迎えて

センターから譲渡されたニャンコ
その後、どうしていますか？

幸せを掴んだおばあちゃん猫つばき

京都市 伊藤様



いつもお世話を
してくれるお母様と。▶



御家族みんなから
可愛がられています。▶

以前飼っていた犬と猫を看取られ、また動物と暮らしたいと4年前にセンターから猫のはなちゃんを引き取られた伊藤様。その翌年にはむぎちゃん、またその翌年にはさんしょちゃんと、過去にセンターから3頭の猫を引き取ってくださいました。

そんな猫に囲まれた毎日の中でもセンターのホームページを見てくださり、長い間センターで暮らしているつばきちゃん(センター名:ちくわ)を家族として迎えてくださ

りました。

つばきちゃんは病気で目が不自由な老猫で、センターでは元気に遊ぶ子猫を横目に、人に「撫でて」と甘える人懐こい猫でした。ただ、なかなか新しい家族と出逢えずいましたが、伊藤様に迎えていただき、幸運を掴みました。今では先住猫のはなちゃんとも仲良しになりました。

伊藤様は大きな愛情で一頭一頭の個性を尊重し、その子のペースに合わせてゆっくり

と見守ってくださいました。椿は伊藤様が一番お好きな花で、その名前をもらつたつばきちゃんの幸運を見届けられた素敵な家庭訪問でした。(S.M)



センターにいた頃の
つばきちゃんの様子▶

犬猫の飼い主さん募集

～新しい飼い主さんになっていただけませんか？～

センターでは、引き取った犬猫のうち、適性があると判断した犬猫を希望者に譲渡する制度があります。
犬や猫の譲渡を希望される方は、是非センターまでお問い合わせください。
ただし、犬や猫の譲渡には、以下の条件がありますので、あらかじめ御了承ください。

譲渡できる方の主な条件（詳細は、センターへ御確認ください。）

- ・京都府域にお住まいの成人で、譲渡希望者自身が飼い主となること。
- ・ペットの飼養が制限されていない住宅にお住まいであること。
- ・飼い主として責任を持ち、家族の同意を得て、家庭で犬や猫を適正に終生飼養できること。
- など



ハス 推定4歳 メス 12kg



カズ 6ヶ月 オス 13kg



リヴァイ 11歳 オス 15kg



ヤサ 1歳 メス 10kg



フク 1歳 オス 10kg

ぼくたち
暮らしませんか？

暮らしませんか？



毎月
第2土曜日
13時～15時
犬の譲渡会
(保護犬見学会)
を開催しています



◀譲渡犬・譲渡猫の
詳しい情報は
こちらから

※既に譲渡先が決定している場合があります。

京都動物愛護センターへのアクセス

- 近鉄十条駅から徒歩5分
 - 京都市営地下鉄烏丸線 十条駅から徒歩15分
 - 京都市営バス 十条大宮停留所から徒歩5分
- ※無料駐車場はございません。

〒601-8103 京都市南区上鳥羽仏現寺町11番地
TEL: 075-671-0336
FAX: 075-671-0338
開所時間: 午前9時～午後5時
休所日: 木曜日（祝日の場合は翌平日）
年末年始

[Facebook](https://www.facebook.com/anilove.kyoto/) ➔ https://www.facebook.com/anilove.kyoto/

[Twitter](https://twitter.com/kyotoanilove/) ➔ https://twitter.com/kyotoanilove/

[Instagram](https://www.instagram.com/kyotoanilove/) ➔ https://www.instagram.com/kyotoanilove/

[YouTube](https://www.youtube.com/channel/UCbbBeFXEkv0EgAuAuUqjg/featured) ➔ https://www.youtube.com/channel/UCbbBeFXEkv0EgAuAuUqjg/featured



京都動物愛護センターマスクットキャラクター
LINEスタンプ第2弾発売中



本紙の作成には“京都市動物愛護事業推進基金（人と動物が共生できるまちづくり基金）”が活用されています。動物愛護推進基金に寄附していただいた方のうち、希望者についてはホームページで公開しており、ふるさと納税の適用も可能です。

なお、寄附の方法については、こちらのホームページを御覧ください。

➡<http://kyoto-ani-love.com/>



この機関紙は行政とボランティアが協働で作成しています。

京都動物愛護センター 機関紙

愛ランド通信

—人と動物の共生を目指して—



令和3年度 夏号

特集 ペット防災

～同行避難を考える～

飼い方注意点

犬の体臭と シャンプーについて

ペットのためのマナー&ルール

散歩中のトラブル ～咬傷事故を起こさない！～

センターニュース

講座「飼う前に考えよう」および 第5期ボランティアスタッフ卒業式

インタビュー 家族に迎えて

幸せを掴んだおばあちゃん猫つばき

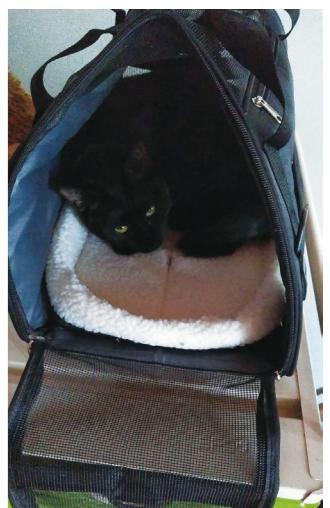
モデル：センター保護猫 年齢：10歳

特集 ペット防災

～同行避難を考える～

東日本大震災から10年の月日が流れました。その間も、災害が起きたたびに毎回のように話題になるのが、「災害時にペットはどうすればいいのか？」、「一緒に逃げるべきか、家に残して行くべきなのか？」、「そもそもペットを避難所に連れて行つても大丈夫なのか？」と言った疑問です。過去の災害時、「ペットを避難所に連れていくと迷惑を掛けるのでは？」という不安から、避難所には行かず、車中泊や野宿を選択する人がいました。しかし、犬猫の飼育頭数は今や15歳未満の子供の数を上回っており、人々の動物愛護に対する意識も大きく変わっています。

ペットは家族の一員とまでよばれるようになっ



普段からキャリーに入る
トレーニングをしましょう▶

LINE
スタンプ
第2弾
発売中

災害への心構え



まずは、お住いの地区的避難所が、災害時のペットの受け入れに対応しているかどうか調べておく必要があります。同行避難が推奨されているとは言え、一般への認知はまだ浅いかもしれません。避難所によっては、ペットは屋外での生活をよぎなくされたり、場合によっては受け入れそのものが出来ない所もあります。お住いの地区的避難所の情報は、あらかじめ調べておきましょう。



◆ペット用の折り畳みケージ。持ち運びが容易なものは災害時に便利です。



体重4キロの猫の5日分の餌と水

【普段から準備しておこう！】

災害発生直後は人の物資の配布が優先されます！必要な物資が手に入らないことも想定した上での備えが大切です。
○フード、水、薬、トイレ砂、ペットシーツ：各5日分は必要です。
○動物病院の診察券やお薬手帳：ワクチン接種履歴が分かるもの。
○その他：お手入れグッズやお気に入りのオヤツを用意しておくと便利です。



猫用の簡易トイレ。底が網目になった収納ケースを敷くと、システムトイレにもなる。



日頃のお手入れグッズ

避難所での生活



ペットも大切な家族の一員だね

ペットの居住スペース

避難所では、人とペットの居住スペースは、完全に分けられ、ペットと飼い主は、離れて過ごすことになります。ペットの居住スペースで、自分のペットのお世話をすることになります。

ペットの居住スペースは、屋外であることも考えられます。ペットの避難場所も屋内が理想ですが、人の避難が落ち着くまでの間、屋外に作られた仮設のスペースに、ケージやキャリーバッグを積み上げるかたちになるかもしれません。ペットは一週間前後の長い期間を狭い

ケージやキャリーの中で過ごすことも考えられます。ペットシーツやフードなどの準備だけでなく、日頃からケージに入る練習をし、ケージの中を安心できる場所にしておくことが大切です。

また、ペットの受入が可能な避難場所であっても、動物が嫌いな人やアレルギーの人があることには変わりなく、飼い主としての配慮が求められます。各避難所の指示に従い、他者に迷惑をかけることなく、お互いが安全に過ごせるよう、協力して避難生活を乗り超えましょう。(桂)

避難所で予想されるトラブルの例

避難所では、動物が嫌いな人や、特定の動物へのアレルギーを持っている人とも、同じ避難所で過ごすことになります。過去の事例をもとに、避難所で予想されるトラブルの例を御紹介します。

- 普段は全く吠えない犬が環境に馴染めず吠えてしまい、避難者の迷惑になった。
- 動物アレルギーの人とトラブルになり、ペットと一緒に避難所を退去することになった。
- ケージの隙間からペットに手を出した人が噛まれてけがをしてしまった。
- 勝手にケージの扉を開けられてしまい、ペットが逃げてしまった。動物が嫌いな人だけでなく、安易にスキンシップを取り人や、動物に不慣れな小さな子供などにも理解してもらえるよう、ケージに貼り紙等をしておくなど工夫をし、未然にトラブルを防ぎましょう。

ペット防災を考える



災害が起きた時、ペットとはぐれないようにしましょう。災害発生時の状況にもありますが、一度はぐれてしまうと二度と会えなくなってしまうこともあります。それだけは避けなければなりません。

災害時、ペットを守ることができるのは、飼い主しかいません。自分の命と安全を第一に考えながら、責任を持って、ペットの命を守ることが大切です。飼い主とペットの幸せな生活を守るためにには、何が必要なのか、平常時からよく考えて準備しておきましょう。

(B.H)



犬の体臭とシャンプーについて

シャンプーの必要性

室内飼いが増えて、犬が室内で人と過ごす時間が長くなりました。犬の清潔を保つことは、衛生面でとても大切なことです。お散歩などでついた汚れが蓄積されると痒みや皮膚炎の原因になります。犬種や運動量などの違いはありますが、夏場は皮脂の分泌が増え、被毛も蒸れやすく細菌が増殖しやすくなります。定期的にシャンプーを行い、皮膚の清潔を保つようにしましょう。



▲定期的なシャンプーで清潔な状態を保ちましょう

犬の体臭って？

皮脂が酸化し雑菌が繁殖することにより体臭が発生します。皮膚炎や外耳炎などが原因で臭いが発生している可能性もあります。異常を感じたら、動物病院で相談しましょう。

シャンプー剤について

シャンプーは犬用のシャンプーを使いましょう。大きく分けて薬用と美容用があります。目的に合わせた種類を選びましょう。アレルギーや乾燥肌の子は、植物由来成分や硫黄成分が入ったものはできるだけ避けましょう。植物由来の成分がアレルギーを悪化させる恐れがありますし、硫黄成分は皮脂を落とす力が強いため、肌が荒れているときは、乾燥を助長させてしまいます。

シャンプー時の注意点

犬の体調が悪い時やワクチンを接種する前後はシャンプーを控えましょう。老犬のシャンプーは、犬の体への負担を少なくするために短い時間で軽めにしましょう。お湯はぬるめでしっかりと皮膚まで濡らします。すぎすぎは、内股、わきの下、指の間、肉球の間もシャンプー剤が残らないようにしっかりとすすぎます。シャンプー後はしっかりと乾かします。ドライヤーは低温で30cmほど離し、ブラシを使うと早く乾きます。生乾きの状態は細菌が繁殖しやすくなりますのでよく乾かしましょう。(こえだ)



センターニュース

2021.3.20

講座「飼う前に考えよう」および第5期ボランティアスタッフ卒業式

平成30年4月から活動してきた第5期ボランティアスタッフの卒業式が、令和3年3月20日に京都動物愛護センターで開催されました！

式典当日、まず杉本彩名誉センター長によるオンライン講演「飼う前に考えよう」が行われました。本講演ではペットを飼う前に考えるべきこと



▲オンライン講演の様子

(居住環境や家族の同意など)の説明のあと、保護犬・猫を迎えることの大切さ、災害時の備え、高齢期への心構えなど、さまざまな内容が語られました。

また講演後、名譽センター長から卒業生に対して、祝辞とともに感謝状が手渡されました。昨年度はコロナ禍でボランティア活動が制限されるなか、一部活動をオンラインで実施するなど新しい試みをされてきた5期生のみなさま、3年間の活動お疲れ様でした！(hokui)



▲職員と散歩中の保護犬「クロ」



▲名譽センター長も毎号読みます！